

連合福島第39回定期大会開かれる

安心社会へ 果敢にアクション！

～広げよう「理解・共感・参加」の輪～

連合福島第39回定期大会は、10月30日福島市のホテル福島グリーンパレスにおいて、役員・代議員など約200名が出席し開催された。

冒頭、澤田精一連合福島会長は『2025春闘では、平均賃金引上げ額1万4076円、率4.94%と34年ぶりの高水準を実現し、賃上げが当たり前の社会への定着に向け、大きな一歩を踏み出した。物価高や国際情勢の不透明さが続く中、実質賃金の継続的な上昇と安定した経済成長を実現するためにも、2026春闘では5%以上の賃上げをめざし、中小企業への支援や価格転嫁の適正化を強く求めていく。



来賓挨拶 連合本部
芳野友子会長

政治闘争では、推薦候補の自治体選挙全勝という成果を得た一方、参議院選挙では厳しい結果となったことを真摯に受け止め、反自民・非共産の勢力拡大を軸に、働く者の声が届く政治の実現をめざしていく。また、今後2年間は組織の強化・拡大を最重要課題と位置づけ、同じ職場で働く仲間の組織化を進めるとともに、ジェンダー平等と多様性の推進、次世代育成、持続可能な運動体制の確立に向けて、全力で取り組んでいく』と挨拶した。

続いて、来賓の芳野友子連合本部会長、佐藤宏隆福島県副知事、岡田直樹福島労働局長、木幡浩福島市長、小熊慎司立憲民主党県連代表、渡部優生国民民主党県連代表代行、丹治千代子社会民主党県連副代表、金子恵美衆議院議員、瓜生信一郎県民連合会長から祝辞が述べられた。一般活動報告には、私鉄総連・菅野代議員から意見・要望があり、執行部の見解

を以て会計決算報告と併せ賛成多数で承認された。

第1号議案『2026～2027年度運動方針(案)』には、自治労・鈴木代議員、電機連合・今田代議員及びJAM・深谷代議員から意見・要望があり、執行部の見解を以て賛成多数で決定された。第2号議案『2025年度剰余金

処分(案)及び2026年度各種会計予算(案)、2026年度連合福島会計監査人の選任について(案)』も賛成多数

で決定された。第3号議案『連合福島「規約・規則・規程」の一部改訂について(案)』については、構成組織毎の代表代議員による一票投票を行い、賛成多数で決定された。第4号議案『役員の選出について(案)』では、2026～2027年度の新役員体制が確認された。

最後に『すべての働く者のための労働運動を県内全域で力強く展開し、地域社会から共感・信頼される連合福島運動の実現に向け力をあわせ邁進していこう』とした大会宣言が採択された後、澤田会長のガンバロー三唱をもって第39回定期大会を閉会した。



挨拶する澤田精一会長



会場代議員の様子



澤田会長のガンバロー三唱